



愛川ふれあいの村 今月の風景

2020年5月 自然のたより

気温が上がる5月。村では数種のランが見事に咲きました。ただ、今年は遠方に花を見に行くこともできません。しかし、身近なところにもひっそりと咲いています。近所の畑にはキツネアザミ。野生化したオオアマナが咲いています。村に来なくとも、たくさんの花に出会えます。花を見ればチョウやハチ、ハナムグリが集まってきます。特にハルジオンはこの時期、虫たちにとって人気の花ですね。散歩に出かけた際は、身近な自然に目を向けてみてください。(石川)



キンラン



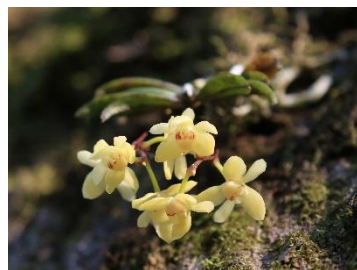
ギンラン



キビタキ♂



ギンリョウソウ



カヤラン



タニウツギ



ヤマツツジ



コアオハナムグリ



アオサギ



クロアゲハの羽化



キジ



エゴノキ



キツネアザミ



オオアマナ



アミガサタケ

トピックス ★ウグイスの話★

多くの野鳥が繁殖期を迎え、さえずりがあちらこちらから聴こえてくる季節になりました。

さて、みなさんは日本三鳴鳥をご存知ですか？オオルリ、コマドリそして今回のウグイスです。オオルリやコマドリは山に行かなければ声を聴いたり姿を観ることは出来ませんが、ウグイスは近くの里山や公園などでも大きい声で鳴いています。ウグイスは、万葉集や古今和歌集にも登場する私たちにとって昔から親しみのある野鳥です。そのさえずり、「ホー、ホケキョ」はみなさんご存知の通りです。でもよく聴いてください。実は注意すると鳴き方が3種類あることがわかります。まず一つ目、高音（たかね）が「ヒー、ホケキョウ」、二つ目は中音（ちゅうね）、「ホー、ホケキョウ」、そして三つ目が低音（ひくね）の「ホ、ホ、ホ、ホケキョウ」です。これに谷渡りの「ケッキョ、ケッキョ、ケッキョ・・・」を入れると4種類の声をウグイスは鳴き分けています。

また、声は「法華経（ホケキョウ）」と聞きなし（人の声に置き換える）されます。しかし本当に「法華経」と鳴いているのでしょうか？よく聴くと意外とそうっていない場合が多いのです。まして高、中、低音すべて「法華経」と鳴くウグイスはほとんどいないことに気が付きます。「ホケッ」や「ホケオ」ときちんと発音できないものや、「ホケペチョ」余計な音が入るものなど、個性あふれるさえずりでなわばり宣言やメスを呼び込んだりしています。これで個体の識別もできます。村はなわばり宣言から子育てのシーズンに、そしてヒナの巣立ちも観察出来るように季節は移り変わります。早くみなさんと一緒に観察出来る日が来ることを楽しみにしています。（高梨）



生き物 ★チョウの見分け方★

生き物を見分けるのは苦労しますよね。特にひらひら舞うチョウとなると大変です。

写真のチョウは何チョウの仲間だと思いますか。モンシロチョウかと思った方も多いでしょう。なんとアゲハチョウの仲間なんです。では、どこで見分けるのでしょうか。

幼虫を見てください。少し可哀そうですが幼虫を刺激したときに“角”を出せば、それはアゲハチョウの仲間です。その角は『臭角』といい、独特の臭いと見た目で襲ったものを驚かせます。

チョウを探すよりも大変なのでは？と思う方も多いと思いますが、庭にある柑橘系の葉や河原に生えるセリの仲間、他にも幼虫の好物はたくさんあります。ぜひ探して、優しくつつんつんしてみてください。

（石川）ウスバアゲハ（食草：ムラサキケマン）▶



包 ★飯蛸★

宮崎県日南海岸で育った私は子どもの頃、水ぬるむ春になると、鬼の洗濯板と呼ばれる岩場に出かけた。腰にビクを下げ、木灰を入れた箱を持って…。

潮が引き露出した岩場の小さな暗い穴を覗く。その奥に飯蛸は潜んでいる。白っぽく光るぬめりを目掛け、つかんだ木灰を投げかける。すると、のそのそと飯蛸が這い出してくる。それを掴んでビクに入れる。この一瞬のワクワク感が、たまらなく楽しかった。

家に帰ると母親が、甘辛く煮てくれた。とてもおいしい御馳走だった。（河野）

※中に詰まっている卵をお米に例えて『飯蛸』という。とても小さなタコで頭の先から触手の先までで25~30cmほど。



環境月間に思つて来月の見どころ

「ピーヒョーリリ、ピーヒョーリリ」とオオルリの声が聞こえてきた。「ツキヒホシ、ホイホイホイ」とサンコウチョウの声も聞こえてきた。ひなを育てる時期はあまり鳴かないが、忙しい中の余裕のある時間なのかもしれない。見つけることはなかなか難しいことなので諦めていたが、ふと遠くの枝を見ると瑠璃色の鳥が見えた。双眼鏡で見るとまさしくオオルリがさえずっていた。

この時期は、萌黄色の山々が鮮やかな緑色へと変わっていき植物たちが猛烈な勢いで繁茂する時である。多様な植物が繁茂すると、それを食べる多様な昆虫類が育ち、さらに留鳥や南から渡ってきた夏鳥たちの繁殖を助ける。その恩恵は、人間にもきつともたらされることだろう。

6月は環境月間。四十八年前の六月五日に『国連人間環境会議』に日本が提案して定められた世界環境デーである。国土を緑の森林にしながら自然の生き物たちを保護していく活動は地球温暖化防止のために恒常的に行われなくてはならないことだろう。

オオルリの美しい鳴き声を聞きながら、いつまでもこの森や生き物たちが健康であることを願った。（吉田）

